

(シラバスNo.21)

科目名	教育と哲学特論	科目コード	17P-K2	
			21P-K1	
	科目群名	関連科目		
	Advanced Seminar in Philosophy of Education	必修/選択	選択	
		教職	-	
担当教員	山梨 彰	単位数	2	

【授業概要】

教育哲学は、教育を哲学的・科学的に考察する方法を提起し、同時に教育のあるべき理念を提示することがその課題である。その考察においては、個人と社会との関係性と歴史的な文脈で教育を把握することが肝要である。また教育哲学は教育実践を反省的に把握する視点を提供してくれ、教育現場の日常性を理念的に見つめ直す役割をはたすことができる。19世紀後半からの大きな社会変動とともに現代の問題に対応するさまざまな教育哲学が現れた。本科目ではロック、ルソー、コンドルッセ等の古典的な教育哲学者の所説を踏まえながら、J. デューイを軸にしなが、イリッチ、フーコー、ブルデュー、ノディングズ等の主に 20 世紀の教育思想を検討していき、現代教育のありようを理念的に考察する一助としたい。

【授業の到達目標】

- (1) 各回の授業で扱う教育哲学の文献などに関して、自分の意見を論理的にまとめて説明できること。
- (2) 教育哲学が提起している諸問題を的確に理解し、教育の現状を考察する自分なりの視点を獲得すること。
- (3) 授業で扱った教育哲学者の教育理念をまとめ、日本の学校事情や自分の教育理念と比較しながらまとめ、発表できることを到達目標とする。

【授業の形態】

メディア授業の実施【あり】

<授業の特徴> (毎回実施に◎、適宜実施に○を付けてください)

形態	実施	具体的に実施すること
講義	○	教育哲学の根本的問いかけの考察と思想史的概観
グループワーク・質疑	◎	教育哲学の基本理念についてに関する議論、意見交換
演習		
プレゼンテーション	○	教育哲学に関する各文献の内容の他の受講生への紹介
制作		
その他()		

【授業計画】

回	内 容
1	教育哲学の問いかけとその今日的意義。
2	近代の教育思想から (ロック、ルソー、コンドルッセの思想)
3	J. デューイの教育哲学①旧教育と新教育の相違点 - J. デューイ『子どもとカリキュラム』
4	J. デューイの教育哲学②学校と社会進歩 - 『学校と社会』
5	J. デューイの教育哲学③学校と子どもの生活 - 『学校と社会』
6	J. デューイの教育哲学④経験と教育 - 『学校と社会』
7	J. デューイの教育哲学⑤経験と教育 - 『経験と教育』
8	J. デューイの教育哲学⑥民主主義と教育 - 『民主主義と教育』

9	「規律・訓練」の場としての学校-ミシェル・フーコーの提起
10	強制のない教育 - I. イリッチ『脱学校の社会』、
11	ハビトゥス・文化資本と教育達成-ブルデュー・パスロン『再生産』
12	ケアリングと継続性 - N. ノディングズ『学校におけるケアの挑戦』
13	批判的教育学と新自由主義的教育-労働、国家、商品化
14	教育改革を考えるために - 松岡亮二『教育格差』、新聞記事から見る英米の実情
15	受講生による課題の発表と最終討論
試験	
<p>【履修上にあたっての準備】 教育哲学に関する前提知識はとくに必要はないが、できれば近代から現代の哲学に関する概説書や評価の定まった哲学者の文献を読んでいることが望ましい。 また、講師と共に現代的な教育課題を考えるという姿勢で積極的に発言していただきたい。 テキストとして用いるデューイの『学校と社会』を持参していただきたい。 受講生各自の課題を考えておいていただきたい。</p>	
<p>【授業外学修（予習・復習）】 予習としては、次回の文献を読んでおいていただきたい。 復習としては、各回に授業を振り返るために各自のまとめを書いていただく予定である。</p>	
<p>【評価方法】 授業内での発表と各自の課題に関するレポート（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合的に判断して評価する。</p>	
<p>【教科書】 John Dewey (1902) The Child and the Curriculum The University of Chicago Press (ジョン・デューイ 市村尚久(訳) (1998) 学校と社会・子どもとカリキュラム 講談社学術文庫) 上記の著作以外は適宜プリントを配布する。</p>	
<p>【参考図書】 新井 保幸・高橋 勝(編) (2006) 教育哲学の再構築 学文社 Daniel Greenberg (1998), Education in America. Sudbury Valley School. (ダニエル・グリーンバーグ、大沼 安史(訳) (1998) 「超教育」-光社) 今井 康雄 (編) (2009) 教育思想史 有斐閣 Nel Noddings (1992) The Challenge to Care in Schools. Teachers College, Columbia University (ネル・ノディングズ、佐藤 学(監訳) (2007) 学校におけるケアの挑戦 ゆみる出版) Paulo Freire(1970) Pedagogy of the Oppressed (パウロ・フレイレ(1979)、小沢 有作(他訳) 被抑圧者の教育学 亜紀書房) 宮澤 康人(編) (2003) 近代の教育思想 (三訂版) 放送大学教育振興会 Ivan d. Illich (1970) Deschooling Society Harper & Row (イヴァン・イリッチ 東 洋・小澤 周三 (訳) (1997) 『脱学校の社会』 東京創元社) Michel Foucault(1975) Surveiller et Punir. Edition Gallimard. (ミシェル・フーコー 田村 俣 (訳) (1977) 監獄の誕生 新潮社) 青柳 宏幸 (2010) マルクスの教育思想 白澤社 Michael, W. Apple(1982). Education and Power. Routledge & Kegan Paul Ltd. (マイケル・アップル 浅沼 茂・松下 晴彦 (訳) (1992) 教育と権力 日本エディタースクール出版部) 佐々木 賢、山梨 彰(2009) 商品化された教育 青土社 Pierre Bourdieu et Jean-Claude Passeron (1970) La Reproduction Editions de Minuit (ブルデュー、パスロン 宮島 喬(訳) (1991) 再生産 藤原書店) 松岡亮二 (2019) 教育格差 ちくま新書</p>	

学習指導要領及び解説（小学校・中学校・高等学校）：文部科学省
その他は授業の際に提示する。